

# 令和元年度 財政状況資料集

## 総括表（市町村）

都道府県名	長野県	市町村類型	中核市	指定団体等の指定状況		区分	令和元年度(千円)	平成30年度(千円)	区分	令和元年度(千円・%)	平成30年度(千円・%)				
				財政健全化等	×										
市町村名	長野市	地方交付税種地	1-6	財源超過	×	歳入総額	165,740,620	148,450,320	実質収支比率	0.2	2.5				
				首都	×	歳出総額	163,662,918	143,639,532	経常収支比率	91.8	89.8				
人口	平成27年国調(人)	377,598	産業構造(※5)	近畿	×	歳入歳出差引	2,077,702	4,810,788	(※1)	(97.8)	(96.9)				
	平成22年国調(人)	381,511		中部	○	翌年度に繰越すべき財源	1,867,949	2,594,443	標準財政規模	87,609,247	88,211,966				
住民基本台帳人口(※7)	増減率(%)	-1.0	区分	過疎	○	実質収支	209,753	2,216,345	財政力指数	0.74	0.74				
	令和02.01.01(人)	375,884		山脈	○	単年度収支	-2,006,592	444,923	公債費負担比率	15.3	15.7				
うち日本人(人)	うち日本人(人)	371,868	第1次	低開発	×	積立金	59,876	10,382	健全化判断比率	-	-				
	うち日本人(人)	374,226		指数表選定	○	繰上償還金	0	0	実質赤字比率	-	-				
増減率(%)	増減率(%)	-0.6	第2次	標準財政収入額		積立金取崩し額	2,908,534	1,000,000	連結実質赤字比率	-	-				
	うち日本人(%)	-0.6		第3次	標準財政需要額		実質単年度収支	-4,855,250	-544,695	実質公債費比率	2.8	2.1			
面積(km <sup>2</sup> )	834.81								将来負担比率	50.7	44.0				
人口密度(人/km <sup>2</sup> )	452							資金不足比率(※4)							
世帯数(世帯)	150,414														
職員の状況															
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	153,389,204	151,165,165				
	市区町村長	1	10,970		一般職員	2,495	8,181,105	3,279	うち公約資金	89,122,169	85,153,708				
	副市区町村長	2	8,990		うち消防職員	477	1,506,366	3,158	債務負担行為額(支出予定額)	32,168,467	19,171,765				
	教育長	1	7,360		うち技能労務職員	114	388,968	3,412	収益事業収入	-	-				
	議会議長	1	7,320		教育公務員	40	157,400	3,935	土地開発基金現在高	1,185,503	1,183,521				
	議会副議長	1	6,540		臨時職員	12	29,340	2,445	財政調整基金	13,408,045	15,148,563				
	議会議員	37	6,060		合計	2,547	8,367,845	3,285	積立金現在高	4,072,967	4,124,851				
										減債基金					
										その他特定目的基金	13,781,047	13,867,616			
ラスパイレシ指数 100.2															
一般会計等の一覧			事業会計等の一覧			公営企業(法適)の一覧			公営企業(法非適)の一覧			関係する一部事務組合等の一覧		地方公社・第三セクター等の一覧	
項番	会計名		項番	会計名		項番	会計名		項番	会計名	項番	組合等名	項番	団体名	(※3)
(1)	一般会計		(6)	国民健康保険特別会計		(10)	水道事業会計		(14)	飯綱高原スキー場事業特別会計	(16)	長野広域連合	(26)	長野市土地開発公社	○
(2)	住宅新築資金等貸付事業特別会計		(7)	介護保険特別会計		(11)	下水道事業会計		(15)	丸瀬田大岡観光施設事業特別会計	(17)	(一般会計)	(27)	長野市農業公社	
(3)	母子父子寡婦福祉資金貸付事業特別会計		(8)	後期高齢者医療特別会計		(12)	戸隠観光施設事業会計				(18)	(老人福祉施設等運営事業特別会計)	(28)	長野市開発公社	
(4)	授産施設特別会計		(9)	駐車場事業特別会計		(13)	産業団地事業会計				(19)	(長野地域ふるさと事業特別会計)	(29)	ながの観光コンベンションビューロー	
(5)	病院事業債管理特別会計										(20)	(ごみ処理施設事業特別会計)	(30)	エムウェーブ	
											(21)	須賀行政事務組合	(31)	長野市勤労者共済会	
											(22)	千曲衛生施設組合	(32)	長野市スポーツ協会	
											(23)	長野県後期高齢者医療広域連合	(33)	長野市文化芸術振興財団	
											(24)	(一般会計)	(34)	ながの緑協	
											(25)	(後期高齢者医療等別会計)	(35)	長野市民病院	

(注釈) ※1: 経常収支比率の( )内の数値は、「収収補填債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。  
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。  
 ※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。  
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。  
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。  
 ※6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人当たり給料月額(百円)」を「アスタリスク(\*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。  
 ※7: 人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

(1) 普通会計の状況(市町村)

歳入の状況(単位 千円・%)					地方税の状況(単位 千円・%)				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	
地方税	58,631,007	35.4	54,840,479	64.9	普通税	52,690,443	89.9	971,500	
地方譲与税	1,334,808	0.8	1,334,808	1.6	法定普通税	52,690,443	89.9	971,500	
利子割交付金	49,085	0.0	49,085	0.1	市町村民税	26,870,737	45.8	971,500	
配当割交付金	215,917	0.1	215,917	0.3	個人均等割	667,954	1.1	-	
株式等譲渡所得割交付金	123,989	0.1	123,989	0.1	所得割	20,313,781	34.6	-	
分離課税所得割交付金	-	-	-	-	法人均等割	1,473,924	2.5	181,193	
地方消費税交付金	7,275,660	4.4	7,275,660	8.6	法人税割	4,415,078	7.5	790,307	
ゴルフ場利用税交付金	48,290	0.0	48,290	0.1	固定資産税	22,479,967	38.3	-	
自動車取得税交付金	182,004	0.1	182,004	0.2	うち純固定資産税	22,215,256	37.9	-	
軽油引取税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	1,121,155	1.9	-	
自動車税環境性能割交付金	44,188	0.0	44,188	0.1	市町村たばこ税	2,218,584	3.8	-	
地方特例交付金等	843,787	0.5	843,787	1.0	鉦産税	-	-	-	
個人住民税減収補填特例交付金	270,734	0.2	270,734	0.3	特別土地保有税	-	-	-	
自動車税減収補填特例交付金	23,445	0.0	23,445	0.0	法定外普通税	-	-	-	
軽自動車税減収補填特例交付金	11,424	0.0	11,424	0.0	目的税	5,940,564	10.1	-	
子ども・子育て支援臨時交付金	538,184	0.3	538,184	0.6	法定目的税	5,940,564	10.1	-	
地方交付税	23,520,951	14.2	18,692,325	22.1	入湯税	38,842	0.1	-	
普通交付税	18,692,325	11.3	18,692,325	22.1	事業所税	2,111,194	3.6	-	
特別交付税	4,828,529	2.9	-	-	都市計画税	3,790,528	6.5	-	
震災復興特別交付税	97	0.0	-	-	水利地益税等	-	-	-	
(一般財源計)	92,269,686	55.7	83,650,532	99.0	法定外目的税	-	-	-	
交通安全対策特別交付金	62,644	0.0	62,644	0.1	旧法による税	-	-	-	
分担金・負担金	1,599,628	1.0	61,352	0.1	合計	58,631,007	100.0	971,500	
使用料	1,518,683	0.9	236,519	0.3					
手数料	847,865	0.5	-	-					
国庫支出金	25,378,173	15.3	-	-					
国有提供交付金(特別区財調交付金)	-	-	-	-					
都道府県支出金	9,574,411	5.8	-	-					
財産収入	624,736	0.4	287,220	0.3					
寄附金	1,162,111	0.7	-	-					
繰入金	3,529,189	2.1	-	-					
繰越金	3,702,648	2.2	-	-					
諸収入	7,993,946	4.8	162,394	0.2					
地方債	17,476,900	10.5	-	-					
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-					
うち臨時財政対策債	5,542,200	3.3	-	-					
歳入合計	165,740,620	100.0	84,460,661	100.0					

(注釈)  
普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

歳出の状況(単位 千円・%)					
目的別歳出の状況(単位 千円・%)					
区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
議会費	671,932	0.4	-	671,086	
総務費	15,417,210	9.4	2,001,558	11,172,708	
民生費	55,828,239	34.1	1,390,037	28,148,254	
衛生費	16,949,379	10.4	1,383,238	9,422,346	
労働費	197,868	0.1	2,587	140,683	
農林水産業費	1,786,786	1.1	590,896	1,213,774	
商工費	8,996,147	5.5	1,135,480	2,358,035	
土木費	17,622,974	10.8	7,823,436	10,721,012	
消防費	4,642,300	2.8	186,400	4,328,223	
教育費	17,943,653	11.0	7,210,664	11,725,431	
災害復旧費	7,594,275	4.6	-	6,232,089	
公債費	16,012,155	9.8	-	15,989,934	
諸支出金	-	-	-	-	
前年度繰上充用金	-	-	-	-	
歳出合計	163,662,918	100.0	21,724,296	102,123,575	

性質別歳出の状況(単位 千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	70,013,659	42.8	47,151,152	46,567,106	51.7
人件費	23,694,593	14.5	21,375,126	21,068,640	23.4
うち職員給	15,243,155	9.3	13,272,580	-	-
扶助費	30,306,976	18.5	9,786,157	9,509,445	10.6
公債費	16,012,090	9.8	15,989,869	15,989,021	17.8
元利償還金	16,009,904	9.8	15,987,683	15,986,835	17.8
内訳					
うち元金	15,252,861	9.3	15,231,773	15,231,773	16.9
うち利子	757,043	0.5	755,910	755,062	0.8
一時借入金利子	2,186	0.0	2,186	2,186	0.0
その他の経費	64,330,688	39.3	42,946,284	36,029,888	40.0
物件費	26,189,365	16.0	17,112,173	15,644,221	17.4
維持補修費	1,687,556	1.0	1,467,181	1,387,545	1.5
補助費等	17,338,853	10.6	13,023,870	9,680,313	10.8
うち一部事務組合負担金	2,505,272	1.5	1,823,339	702,019	0.8
繰入金	13,122,310	8.0	10,974,767	9,305,985	10.3
積立金	542,078	0.3	178,976	-	-
投資・出資金・貸付金	5,450,526	3.3	189,317	11,824	0.0
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	29,318,571	17.9	12,026,139	-	-
うち人件費	1,018,311	0.6	1,015,862	-	-
普通建設事業費	21,724,296	13.3	5,794,050	-	-
うち補助	12,823,603	7.8	1,858,519	-	-
うち単独	8,534,484	5.2	3,868,272	-	-
災害復旧事業費	7,594,275	4.6	6,232,089	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	163,662,918	100.0	102,123,575	-	-

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

令和元年度 長野県長野市

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

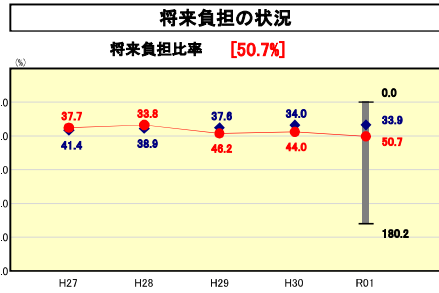
会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	165,718	163,648	2,070	210	3,532	153,335	
2 住宅新築資金等貸付事業特別会計	44	44	-	-	40	-	
3 母子父子寡婦福祉資金貸付事業特別会計	26	19	7	-	6	55	
4 授産施設特別会計	74	74	-	-	15	-	
5 病院事業債管理特別会計	976	976	-	-	-	6,883	
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							
294							
295							

### (3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人口	375,884	人(R2.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	371,868	人(R2.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	834.81	k㎡	実質公債費比率	2.8	%
歳入総額	165,740,620	千円	将来負担比率	50.7	%
歳出総額	163,662,918	千円	市町村類型	H27 中核市 H28 中核市 H29 中核市 H30 中核市	
実収支	209,753	千円	(年度毎)	H30 中核市 R01 中核市	
標準財政規模	87,609,247	千円			
地方債現在高	153,389,204	千円			



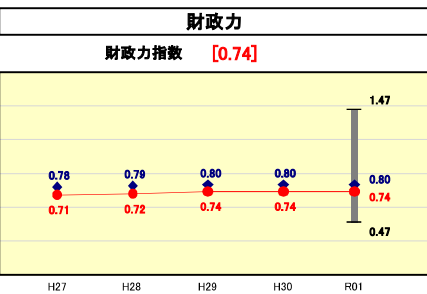
※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
 ※令和2年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。  
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。  
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。  
 ※人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。  
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和元年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



類似団体内順位 32/59 全国平均 27.4 長野県平均 0.0

#### 将来負担比率の分析欄

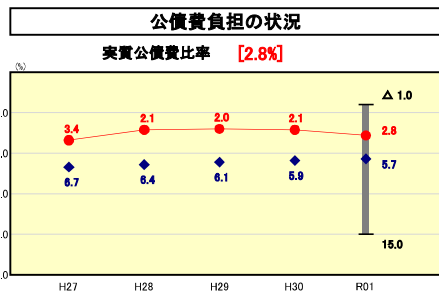
令和元年度は、東日本台風災害による災害復旧事業債の発行に伴う市債残高の増加や同災害の影響による財政調整基金残高の減少により、前年度に比べて6.7ポイント増加している。  
 今後とも、重要性や緊急性などを十分に踏まえながら施策を厳選し、地方債の借り入れに際しては償還時に地方交付税措置のある有利な地方債を活用するなど、将来負担が過度に上昇しないよう取り組んでいく。



類似団体内順位 42/58 全国平均 0.51 長野県平均 0.40

#### 財政力指数の分析欄

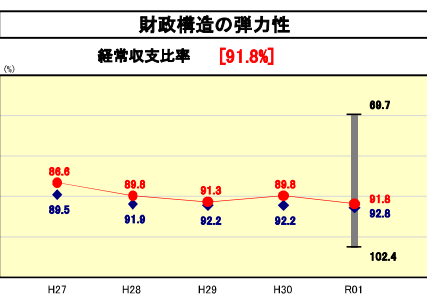
平成15年度までは類似団体とほぼ同程度の数値であったが、平成17年1月及び平成22年1月の市町村合併を経て市域、人口が増加する一方、市税収入が伸び悩み、数値が悪化した。  
 令和元年度においては、個人市民税が増加したものの、臨時財政対策債元利償還金の増加等により、大きな変動に至らず、類似団体同様、横ばいとなった。  
 今後も、長野県地方税滞納整理機構の活用などによる市税の収納向上や公共施設の統廃合や長寿命化、事務事業の見直しを計画的に進め、財政基盤の強化に努める。



類似団体内順位 12/58 全国平均 5.8 長野県平均 6.1

#### 実質公債費比率の分析欄

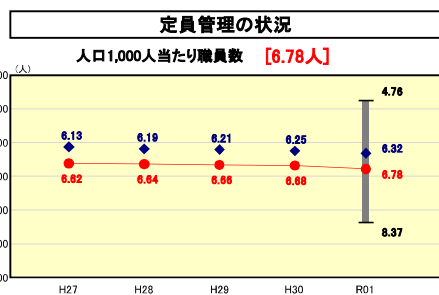
第一庁舎・芸術館建設の元金償還の本格化や第四学校給食センター、ごみ処理施設の償還開始により、一般会計等における公債費(繰上償還及び借換除く。)が増加したことから、令和元年度は前年度に比べ0.7ポイント上昇した。  
 近年の公共施設の建設により地方債を多額に発行したことから、今後も公債費の増加が見込まれるため、数値はやや増加する見込みである。  
 これからは、事業の緊急度や優先性、必要性を十分に検討した上で、「選択と集中」を徹底することにより、公債費の縮減に努める。



類似団体内順位 23/58 全国平均 93.6 長野県平均 87.0

#### 経常収支比率の分析欄

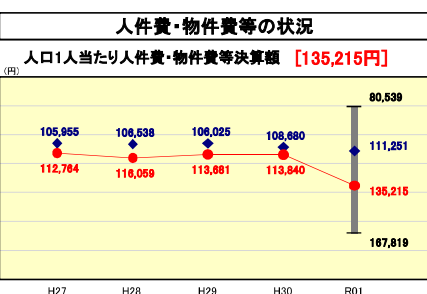
平成27年度から29年度にかけては、地方交付税における合併算定替の段階的削減による減少に伴い悪化した。平成30年度は市税等の増加に伴い改善したものの、令和元年度は東日本台風災害に伴う被災者生活再建支援や障害者(児)介護給付費等扶助費の増加により、前年度に比べ2.0ポイント悪化した。  
 類似団体平均値からは、昨年度の2.4ポイント下回った状況から1.0%下回ったところまで近づいているため、引き続き人件費、公債費、物件費などの経常経費の抑制に努めるとともに、市税の収納向上のほか、未利用財産の貸付・売却、有料広告収入の促進、使用料など利用者負担の適正化を図り、経常収入の増加に努める。



類似団体内順位 40/58 全国平均 6.03 長野県平均 6.22

#### 人口1,000人当たり職員数の分析欄

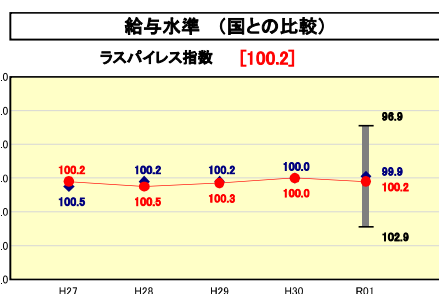
平成22年1月の市町村合併により職員数が増加し、類似団体の平均を上回ったが、平成22年度に独自に策定した第四次長野市定員適正化計画(H22~H26年度)の計画期間の削減目標30人に対し、38人の削減を達成した。  
 その後のH27~R1の間に職員数は33人減少してきているところであり、今後も事務事業等の見直しを継続的に、本市の実情を考慮しつつ、市民サービスの低下を招くことのないよう、適正な定員管理に努める。



類似団体内順位 52/59 全国平均 135,880 長野県平均 147,808

#### 人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄

人件費は、長野市定員適正化計画に基づく職員数の削減、外部委託の推進などにより総人件費の抑制に取り組んできたが、退職手当の増や保育士の賃金単価改定等により、前年度と比較して、1.0%増加。物件費は、東日本台風災害に伴う廃棄物・土砂除去費の増により42.3%増加となり、これらの影響で人口一人当たりの人件費・物件費等は、前年度より21,375円の大増となった。  
 台風災害からの復旧作業の進捗により物件費は縮小していくと推測されるが、その一方で人口は前年度比2,141人減となる375,884人となり、人口の減少傾向が顕著になりつつある。引き続き、人件費の抑制を図るとともに、公共施設等総合管理計画に基づき施設維持管理経費の削減に努めていく。



類似団体内順位 34/59 全国市平均 98.9 全国町村平均 96.4

#### ラスパイレース指数の分析欄

職務給の原則に適合しない不適正な給与制度の運用(いわゆる「ワタリ」)を廃止し、平成28年度から職員の職責に応じた職務の級を決定し格付することとした職務給の徹底を図った。  
 その結果、上記制度移行前の100.5からは0.3ポイントのマイナスではあったが、前年との比較では0.2ポイントの上昇となった。今後も職員の格付け状況等を引き続き検証し必要な見直しを行うことにより、一層の給与水準の適正化に努める。

# (4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和元年度

長野県長野市

## 経常収支比率の分析

人口	375,884	人(R2.1.1現在)	-	%
うち日本人	371,868	人(R2.1.1現在)	-	%
面積	834.81	km <sup>2</sup>	2.8	%
歳入総額	165,740,620	千円	50.7	%
歳出総額	163,662,918	千円		
実質収支	209,753	千円		
標準財政規模	87,609,247	千円		
地方債現在高	153,389,204	千円		

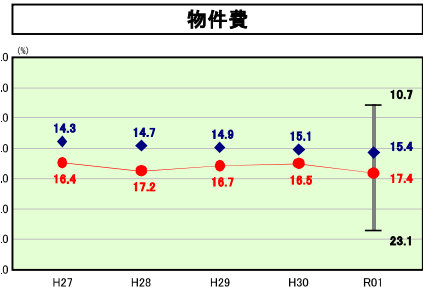
実質赤字比率	-	%
連結実質赤字比率	-	%
実質公債費比率	2.8	%
将来負担比率	50.7	%

市町村類型	H27 中核市 H28 中核市 H29 中核市
(年度毎)	H30 中核市 R01 中核市

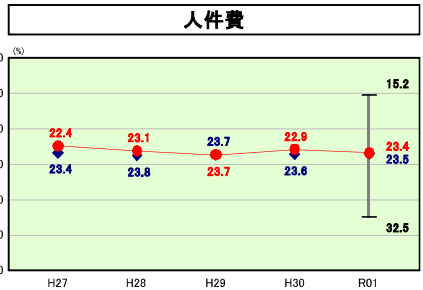


※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。  
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和元年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



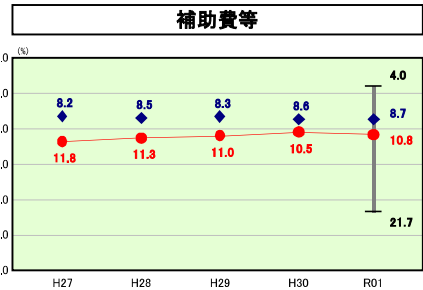
#### 物件費の分析

物件費に係る経常収支比率が類似施設と比較して高くなっているのは、業務の民間委託を推進してきたこと、他の類似都市にない要因として、オリンピック開催に伴う建設した大型の競技施設の管理運営委託費が要因となっている。  
 令和元年度は、東日本台風災害に伴う廃棄物・土砂撤去費の皆増などにより、前年度と比較して0.9ポイント増加した。なお、類似都市平均と比較すると2.0ポイント上回っており、昨年度からの類似都市平均との差は広がった。



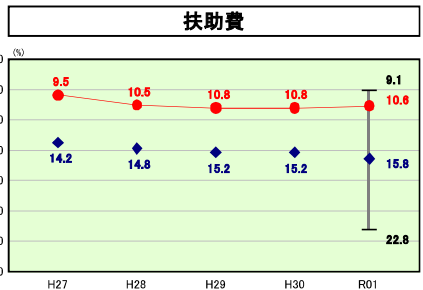
#### 人件費の分析

人件費に係る経常収支比率が類似団体平均値を下回っており、これまで指定管理者制度の積極的な導入やPFなど、民間活力の活用による職員数の抑制、時間外勤務手当の縮減などに努めてきたことによるものである。  
 また、前年度との比較で経常収支比率が0.5ポイント上昇したのは、退職手当の増などにより、人件費における経常経費充当一般財源が約2.3億円の増となったことが主な要因である。



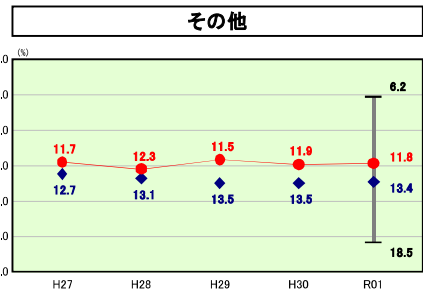
#### 補助費等の分析

補助費等に係る経常収支比率が類似団体と比較して高くなっているのは、下水道事業における企業債償還額に対する補助金が多額になっていることが要因のひとつである。今後は、下水道整備率の向上に伴い事業の標準化が進むことにより減少するものと見込んでいる。  
 令和元年度は、幼稚園・認定こども園施設型給付費の増加等により、前年度と比較して0.3ポイント上昇した。



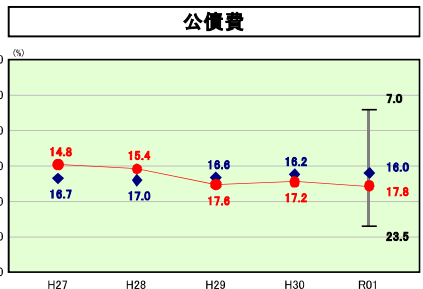
#### 扶助費の分析

扶助費に係る経常収支比率が類似団体平均値と比較して5.2ポイント下回っており、また前年度と比較すると0.2ポイント減少している。主に私立保育所入所委託料の一般財源の減などが要因である。  
 扶助費については、今後も少子化対策の充実や高齢者の増加、障害者(児)介護給付費・訓練等給付費等に要する費用などにより増加が見込まれることから、法定外事業の見直しなどに取り組んでいく。



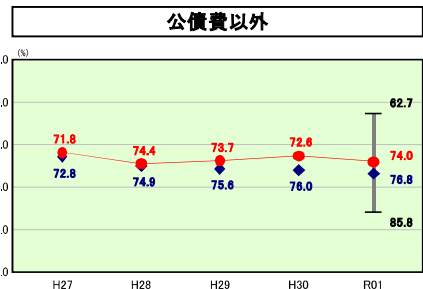
#### その他の分析

その他の主なものは、介護保険特別会計、国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計への繰出金であり、令和元年度は、類似団体との比較においては1.6ポイント低くなっている。今後は高齢化の進展に伴う保険給付費の増加などが見込まれることから、法定基準外の繰出金の抑制に努める。



#### 公債費の分析

オリンピック開催時の多額の起債の償還が平成29年度に終了した一方で、同年度以降の第一庁舎・芸術館建設等の元金償還の本格化に加え、令和元年度は第四学校給食センターや高機能消防指令システム・中央消防署整備事業等の償還開始により、公債費における経常経費充当一般財源が増加したため、0.6ポイント上昇したものである。  
 今後、東日本台風災害に係る市債償還がさらに本格化することに伴い、公債費が増加するため、新規市債発行の抑制に努める。



#### 公債費以外の分析

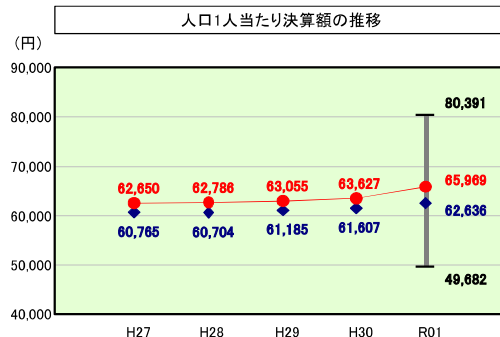
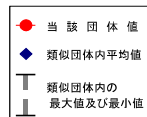
経常収支比率は、類似団体と比較して2.8ポイント下回っているものの、令和元年度の数値は東日本台風災害の影響による歳出増加により、前年度と比較して1.4ポイント上昇している。  
 今後、東日本台風災害からの復興や施設の長寿命化経費の増加が見込まれるため、事業の選択と集中、事務事業のスクラップアンドビルド、公共施設の統合などを徹底し、経常経費の抑制に努めていく。

## (4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和元年度

長野県長野市

### 人件費及び人件費に準ずる費用の分析



### 人件費及び人件費に準ずる費用

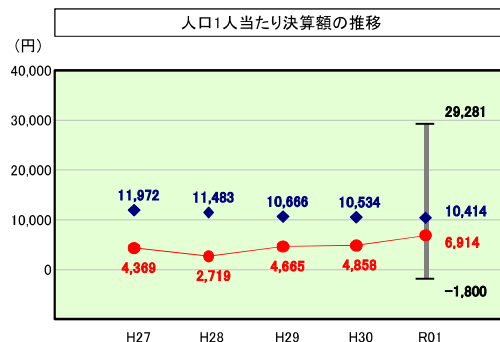
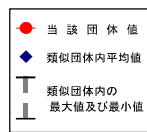
	当該団体決算額 (千円)		人口1人当たり決算額	
	当該団体 (千円)	類似団体内平均 (千円)	当該団体 (円)	類似団体内平均 (円)
人件費	23,694,593	63,037	58,073	8.5
賃金(物件費)	717,458	1,909	2,762	▲ 30.9
一部事務組合負担金(補助費等)	368,088	979	1,714	▲ 42.9
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	-	-	632	-
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	9	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	762,751	2,029	1,980	2.5
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	1,018,311	2,709	1,379	96.4
▲退職金	▲ 1,764,606	▲ 4,695	▲ 3,914	20.0
合計	24,796,595	65,969	62,636	5.3

### 参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	6.78	6.32	0.46
ラスパイレズ指数	100.2	99.9	0.3

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

### 公債費及び公債費に準ずる費用の分析

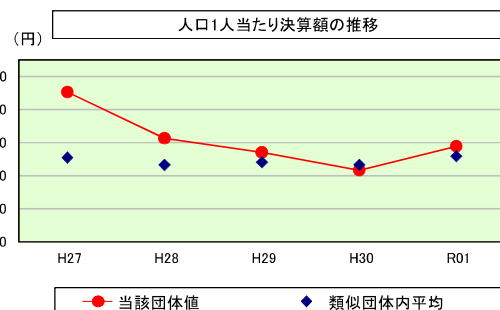


### 公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)		人口1人当たり決算額	
	当該団体 (千円)	類似団体内平均 (千円)	当該団体 (円)	類似団体内平均 (円)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	15,964,604	42,472	36,995	14.8
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	3	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	8	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	4,879,738	12,982	8,919	45.6
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	459,523	1,223	380	221.8
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	132,240	352	886	▲ 60.3
一時借入金利息 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	1	-
▲特定財源の額	▲ 3,494,682	▲ 9,297	▲ 8,108	14.7
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 15,342,706	▲ 40,818	▲ 28,743	42.0
合計	2,598,717	6,914	10,414	▲ 33.6

※令和2年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

### (参考) 普通建設事業費の分析



### 普通建設事業費

	当該団体決算額 (千円)		人口1人当たり決算額			
	当該団体 (千円)	増減率(%) (A)	当該団体 (円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)	
H27	34,735,632	▲ 21.7	90,572	▲ 1.4	▲ 20.3	
うち単独分	25,166,738	3.4	65,622	7.5	▲ 4.1	
H28	23,913,515	▲ 30.9	62,601	▲ 8.8	▲ 22.1	
うち単独分	16,579,468	▲ 33.9	43,402	▲ 5.4	▲ 28.5	
H29	20,535,264	▲ 13.8	53,975	▲ 3.6	▲ 17.4	
うち単独分	12,679,914	▲ 23.2	33,328	▲ 4.3	▲ 18.9	
H30	16,342,422	▲ 19.9	43,231	▲ 3.4	▲ 16.5	
うち単独分	8,534,484	▲ 36.8	21,050	▲ 4.6	▲ 32.2	
R01	21,724,296	33.7	57,795	11.6	22.1	
うち単独分	14,183,636	7.9	37,221	9.6	▲ 1.7	
過去5年間平均	23,450,226	▲ 10.5	61,635	0.3	▲ 10.8	
うち単独分	14,183,636	▲ 16.5	37,221	0.6	▲ 17.1	



# (5) 市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

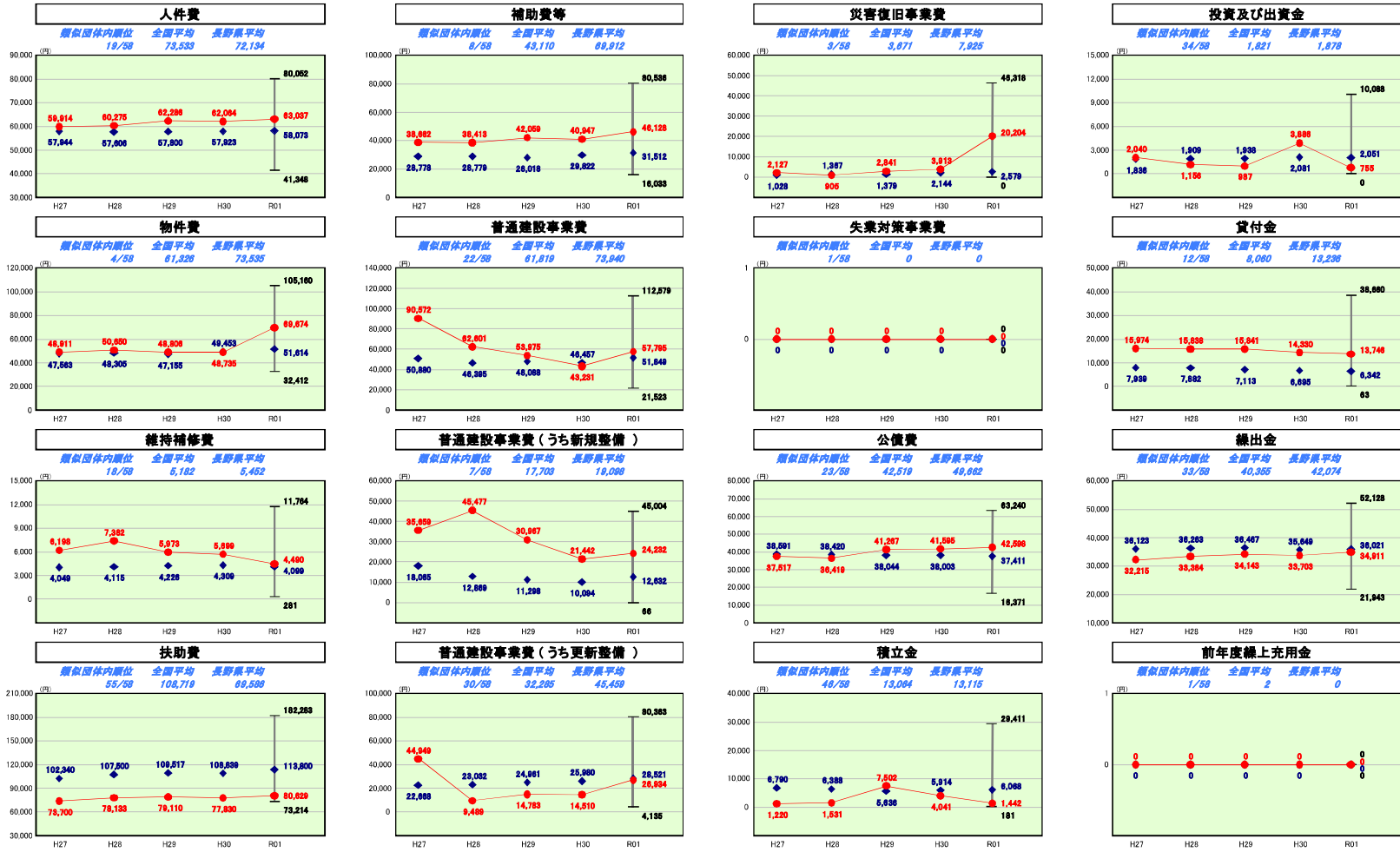
令和元年度

長野県長野市

人口	375,884人(22.1.現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	371,868人(22.1.現在)	運転実質赤字比率	2.8%
面積	334.81km <sup>2</sup>	実質公債費比率	50.7%
歳入総額	165,740,620千円	等単独費比率	
歳出総額	163,682,918千円	市町村類型	H27 中核市 H28 中核市 H29 中核市
実収支	2,057,702千円	(年度毎)	H30 中核市 R01 中核市
標準財政規模	87,606,247千円		
地方債現在高	163,388,204千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。  
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和元年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



**性質別歳出の分析**  
 普通建設事業費(うち更新整備)の1人当たりの事業費は、第一学校給食センター改修事業費及び小・中学校エアコン整備事業費の増により前年度比で大幅に増加した。今後は施設の長寿命化対策経費の増加が見込まれる。  
 また、東日本台風災害関連事業に伴い、廃棄物・土砂撤去事業費の増による物件費の増加及び被災農業施設復旧事業費の増による災害復旧費の増加となっている。  
 一方、扶助費の1人当たりの事業費が類似都市を下回っているのは、生活保護の保護率が低いことが要因となっている。  
 積立金の1人当たりの事業費は、公共施設等総合管理基金積立金の減などにより前年度から減少し、投資及び出資金の1人当たりの事業費は、県立大学への出資金の普減により減少している。  
 なお、公債費については、第四学校給食センターや高機能消防指令システム・中央消防署整備等の償還開始により増加している。

# (6)市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

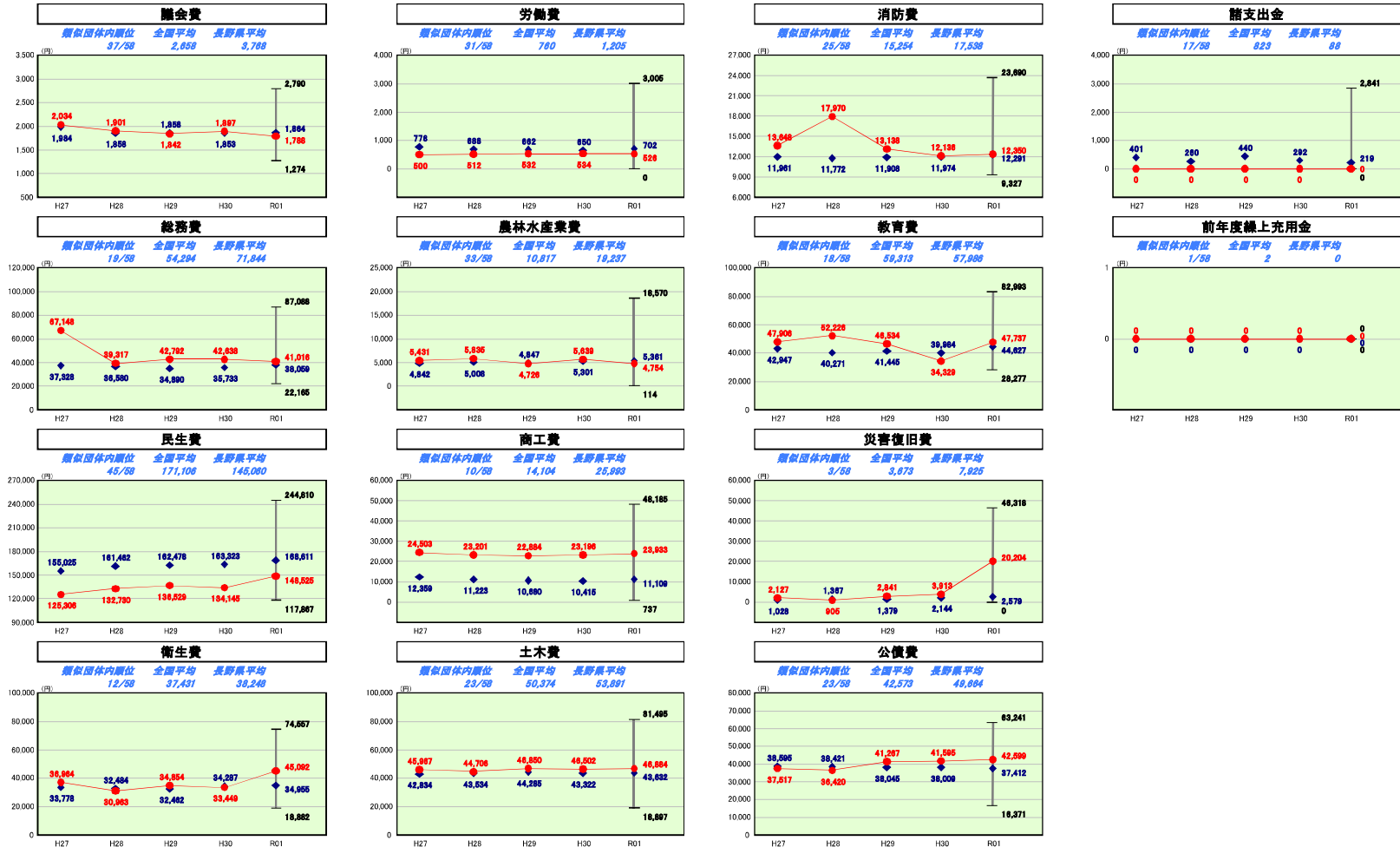
令和元年度

長野県長野市

人口	375,884人(22.1.現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	371,868人(22.1.現在)	運轉実質赤字比率	-%
面積	334.81k㎡	実質公債費比率	2.8%
農入総額	165,740,820千円	実質負担率	50.7%
農出総額	163,682,918千円	市町村類型	H27 中核市 H28 中核市 H29 中核市
実収支	209,783千円	(年度毎)	H30 中核市 R01 中核市
標準財政規模	87,609,247千円		
地方債現在高	163,389,204千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。  
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和元年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



**目的別歳出の分析**  
 教育費は、第一学校給食センター改修事業費及び小・中学校エアコン整備事業費の増により前年度比で大幅に増加し、類似都市平均を上回った。今後、小・中学校の長寿命化対策経費の増加が見込まれる。  
 また、東日本台風災害関連事業に伴い、廃棄物・土砂撤去事業費の増による衛生費の増加及び被災農業施設復旧事業費の増による災害復旧費の増加となっている。  
 商工費は、中小企業資金融資のための多額の預託金を歳入歳出に同額計上していることから、類似都市の平均を常に上回っている。  
 なお、公債費については、第四学校給食センターや高機能消防指令システム・中央消防警備等の償還開始により増加している。

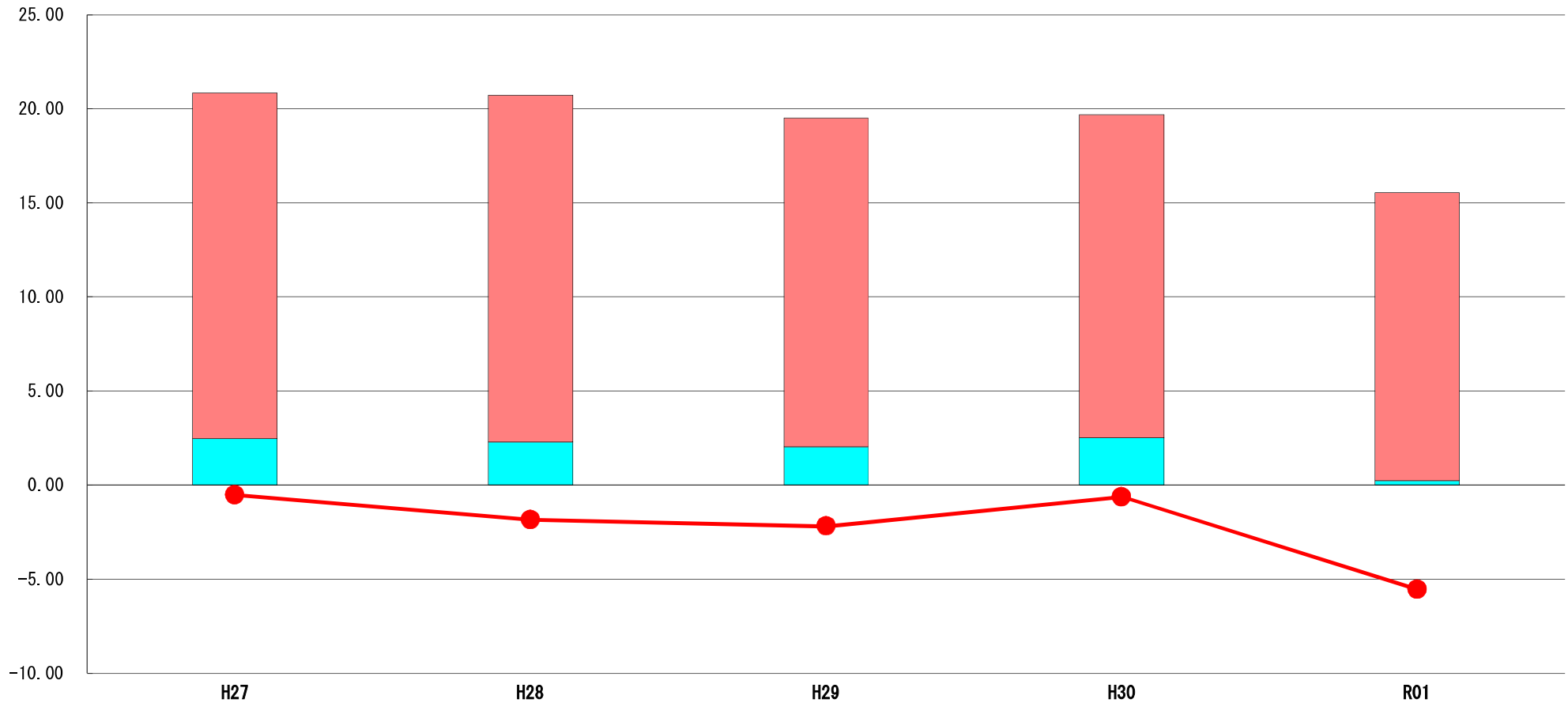


# (7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）




令和元年度

長野県長野市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

区分	年度	H27	H28	H29	H30	R01
 財政調整基金残高		18.37	18.42	17.47	17.17	15.30
 実質収支額		2.47	2.29	2.03	2.51	0.24
 実質単年度収支		▲ 0.52	▲ 1.83	▲ 2.18	▲ 0.62	▲ 5.54

## 分析欄

令和元年度決算において歳出は、第一学校給食センター改修、小・中学校へのエアコン整備事業等により、普通建設事業費が53.8億円の増加、また東日本台風災害に係る廃棄物・土砂撤去費用や農地・農業用施設復旧事業等により、決算額は前年度比14.0%増となった。

歳入は、東日本台風災害に係る廃棄物処理事業費補助金等により国庫支出金が59.4億円の増加、また災害対策債の皆増による市債の増加などにより、11.7%増となった。

なお、財源不足を補填するための財政調整等基金からの繰入は、平成30年度の決算剰余金の処分として11億800万円を積み増したものの、東日本台風災害への対応等のため29億円を取り崩し、取崩額が積立額を大きく上回る状況となった。実質収支は、前年度比約20億円減の2.1億円の計上に留まった。

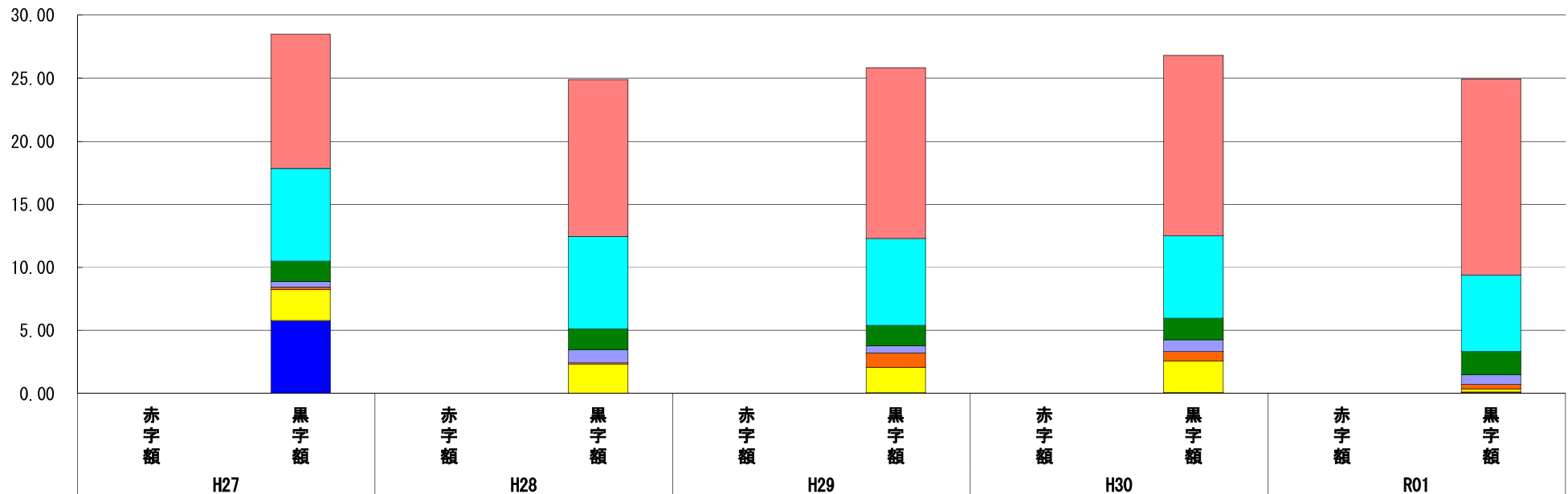
今後、東日本台風災害からの復興や施設の長寿命化経費の増加が見込まれるため、事業の選択と集中、事務事業のスクラップアンドビルド、公共施設の統廃合などを徹底し、経常的経費の抑制に努めていく。

### (8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

令和元年度

長野県長野市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

会計	年度	H27	H28	H29	H30	R01
水道事業会計		10.66	12.42	13.54	14.30	15.53
下水道事業会計		7.33	7.32	6.91	6.52	6.07
産業団地事業会計		1.66	1.67	1.61	1.71	1.82
介護保険特別会計		0.40	1.04	0.59	0.94	0.79
国民健康保険特別会計		0.21	0.12	1.13	0.74	0.36
一般会計		2.46	2.28	2.02	2.51	0.23
戸隠観光施設事業会計		0.01	0.02	0.04	0.05	0.06
駐車場事業特別会計		0.00	0.00	0.00	0.02	0.05
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		5.77	0.01	0.01	0.01	0.01

#### 分析欄

一般会計、特別会計、企業会計において、実質収支額及び資金剰余額は黒字のため、連結実質赤字額は生じていない。  
 一般会計については、東日本台風災害前と同程度の割合まで改善していくように努める。

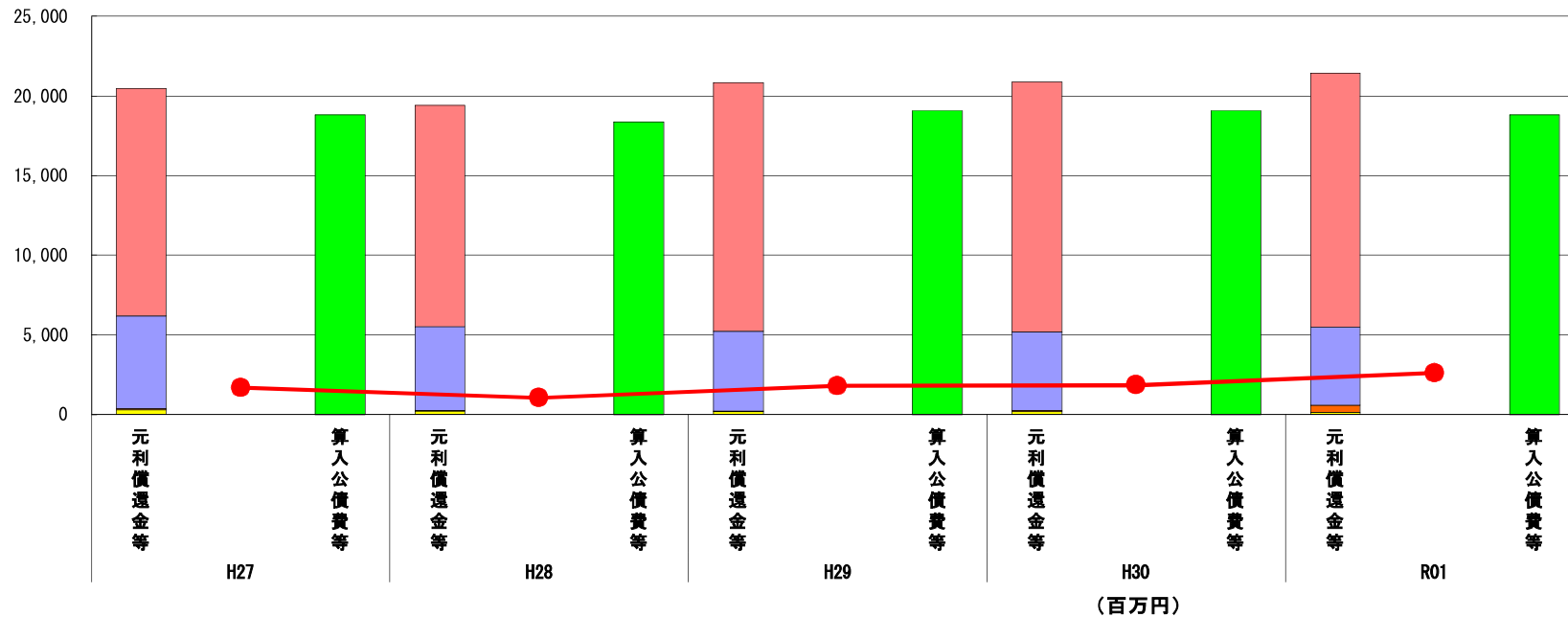
※令和2年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出してない団体については、グラフを表記しない。

### (9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

令和元年度

長野県長野市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度				
		H27	H28	H29	H30	R01
元利償還金等(A)	元利償還金	14,313	13,894	15,629	15,713	15,965
	減債基金積立不足算定額※2	-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額	-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金	5,839	5,292	5,005	4,934	4,880
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	51	50	51	96	460
	債務負担行為に基づく支出額	294	190	162	157	132
	一時借入金の利子	-	-	-	-	-
算入公債費等(B)	算入公債費等	18,822	18,388	19,072	19,064	18,838
(A) - (B)	実質公債費比率の分子	1,675	1,038	1,775	1,836	2,599

#### 分析欄

公債費（元利償還金）については、行財政改革の推進や効率的な財政運営等により地方債発行を抑制してきた結果、平成28年度まで減少傾向にあったが、平成25年度以降の第一庁舎・芸術館建設等の建設事業の進捗に伴い、建設事業債の発行が大幅に増加し、平成29年度以降、その元金償還が本格化したことから、上昇に転じた。

今後も東日本台風災害に係る復旧・復興事業や施設の長寿命化対策等により上昇が見込まれる。

※1 令和2年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考)

(百万円)

		年度				
		H26末	H27末	H28末	H29末	H30末
※2 減債基金積立状況等	減債基金残高(注)	-	-	-	-	-
	減債基金積立相当額	-	-	-	-	-

#### 分析欄

満期一括償還地方債なし

(注) 減債基金残高のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源として積み立てた額に係るもののみを記入。

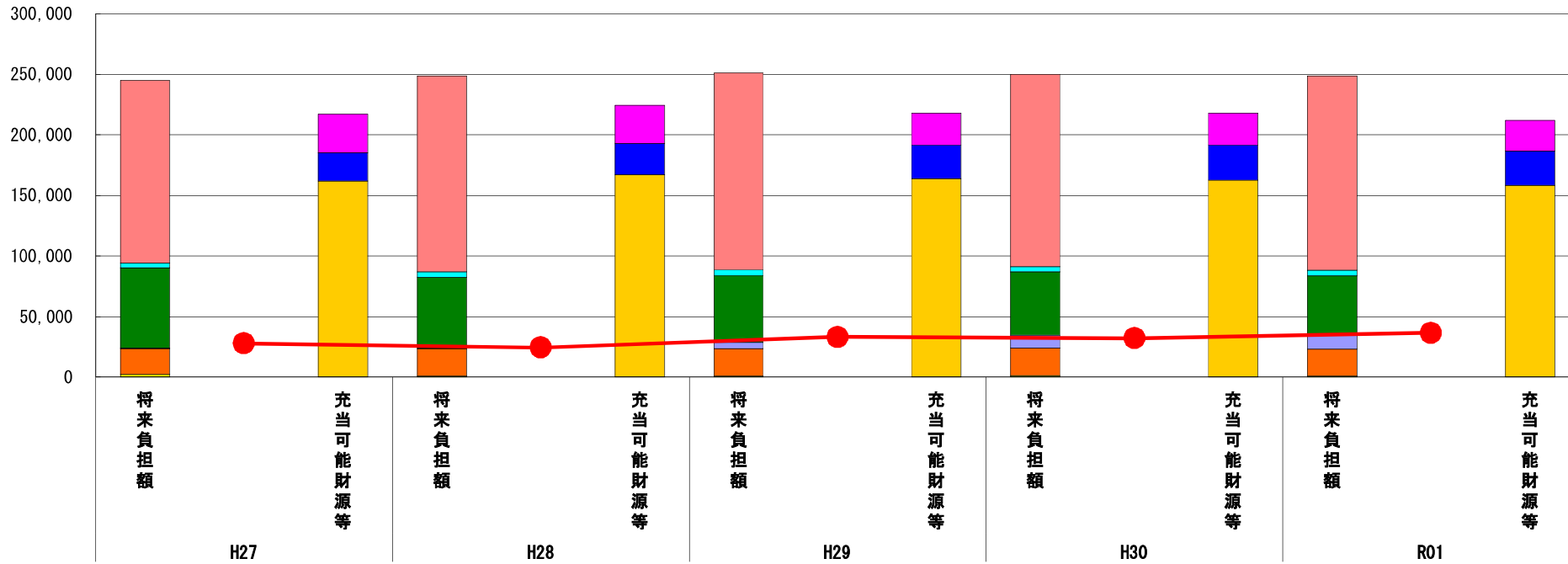
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

# (10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

令和元年度

長野県長野市

(百万円)



(百万円)

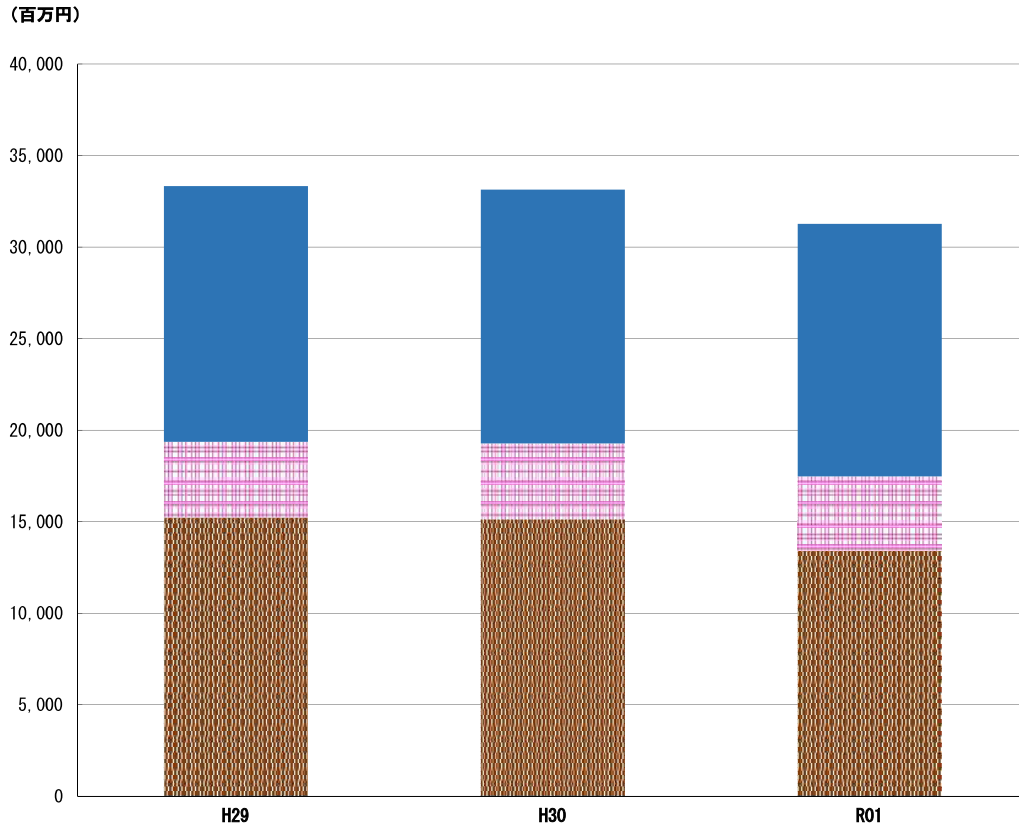
分子の構造		年度	H27	H28	H29	H30	R01
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		150,598	161,827	162,233	158,797	160,273
	債務負担行為に基づく支出予定額		3,815	4,369	4,632	4,411	4,617
	公営企業債等繰入見込額		66,500	58,304	55,512	52,015	48,548
	組合等負担等見込額		282	739	4,895	10,935	11,755
	退職手当負担見込額		21,584	22,502	22,796	22,262	22,084
	設立法人等の負債額等負担見込額		2,053	817	907	1,467	1,144
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
	充当可能財源等 (B)	充当可能基金		31,961	31,502	26,172	26,492
充当可能特定歳入			23,209	25,659	27,798	28,837	28,039
基準財政需要額算入見込額			161,840	167,036	163,743	162,553	158,386
(A) - (B)	将来負担比率の分子		27,822	24,361	33,262	32,006	36,666

## 分析欄

地方債の現在高は、平成25年度以降の第一庁舎・芸術館建設等の建設事業の本格化に伴い増加しており、また、長野広域連合で実施しているごみ処理施設建設に伴う負担金の増加や、市有施設の長寿命化対策の進捗により、今後もさらに増加する見込みである。また、第一庁舎・芸術館等の建設に備え蓄えてきた基金の減少のほか、財政調整基金も社会保障関係経費や公債費等の経常的経費の増加により減少する見込みであることから、将来負担比率の分子全体としては今後も増加する見込みである。

※令和2年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

# (11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）



区分		年度	H29	H30	R01
財政調整基金			15,253	15,149	13,408
減債基金			4,119	4,125	4,073
その他特定目的基金			13,966	13,868	13,781
職員退職手当基金			3,836	4,153	4,108
公共施設等総合管理基金			2,404	3,187	3,338
地域振興基金			2,936	2,926	2,921
過疎地域自立促進基金			1,189	1,278	1,366
ふれあい長寿社会福祉基金			649	585	516
基金残高合計			33,338	33,141	31,262

令和元年度

長野県長野市

## 基金全体

(増減理由)

基金残高は、ピーク時の平成4年度には602億円あったが、オリンピック関連施設や市民病院の整備などの財源として活用したことから、平成10年度には279億円まで減少した。その後、一時期には基金への積立が可能となったものの、市税の伸び悩みや地方交付税の減少によって、基金の取崩しに依存した状態が続いていたが財政調整基金等に過度に依存した体質から脱却し、プロジェクト事業の本格化に備えて新たに基金を造成するなど準備を進め、平成26年度から平成28年度にはプロジェクト事業への基金の活用を行った。

このような経過により、平成27年度以降、基金の積立総額が減少を続けており、令和元年度の財政調整基金においては、決算剰余金の1/2の11.1億円を積み立てた上で、東日本台風災害の影響による財源不足を補うため、29.1億円の取崩しを行った。そのほか資源再生センターの火災の影響により基金全体では18.4億円の減となった。

(今後の方針)

国庫補助等の財源が見込めない単独事業や少子・高齢化の進行により年々増加する社会保障関連経費のほか新型コロナウイルス感染症等の災害対策にも対応するため、歳出の見直しなど財政健全化への取り組みにより、財政調整基金の取崩し額の圧縮を図り、適切に積立を行っていく。

## 財政調整基金

(増減理由)

前年度決算剰余金の2分の1の11.1億円を積み立てる一方、当初26.3億円と見込んだ基金の取崩しは、東日本台風災害の影響により2.8億円増の29.1億円に膨らんだ。そのため、平成30年度末（残高151.5億）と比較すると、約17.4億円の減で基金残高は134.1億円余りとなり、大幅な減少となった。

(今後の方針)

国庫補助等の財源が見込めない単独事業や少子・高齢化の進行により年々増加する社会保障関連経費のほか新型コロナウイルス感染症や災害対策にも対応するため、歳出の見直しなどの財政健全化への取り組みにより、財政調整基金の取崩し額の圧縮を図り、適切に積立を行っていく。

## 減債基金

(増減理由)

東日本台風災害の影響により当初見込んだ2,000万円の取崩しを行った一方、基金運用益569万円を積み立てた。

(今後の方針)

市債の償還及び市債の適正な管理に必要な財源を確保するため、適切に管理・運用していく。

## その他特定目的基金

(基金の用途)

- ・リサイクル基金
- ・職員退職手当基金
- ・公共施設等総合管理基金 外

(増減理由)

- ・リサイクル基金 資源再生センターの火災に伴う施設改修支出へ充当
- ・職員退職手当基金 退職手当に備えた積み立て及び支出
- ・公共施設等総合管理基金 市有施設の老朽化対策に備え積み立て
- ・森林づくり基金 森林譲与税の活用のため新たに設置

(今後の方針)

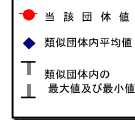
- ・職員退職手当基金 今後増加が見込まれる退職手当に備え適切に積み立てる
- ・公共施設等総合管理基金 市有施設の老朽化対策のため適切に積み立て、必要な経費に対し充当する
- ・その他 一般財源の不足が見込まれることから、基金の目的に沿って適切に各事業に充当していく

# (12)市町村公会計指標分析／財政指標組合せ分析表

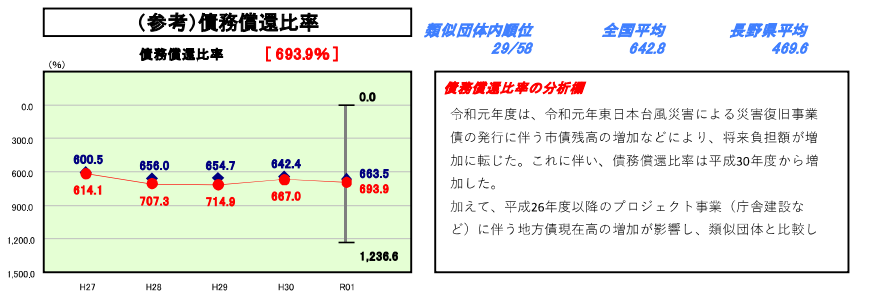
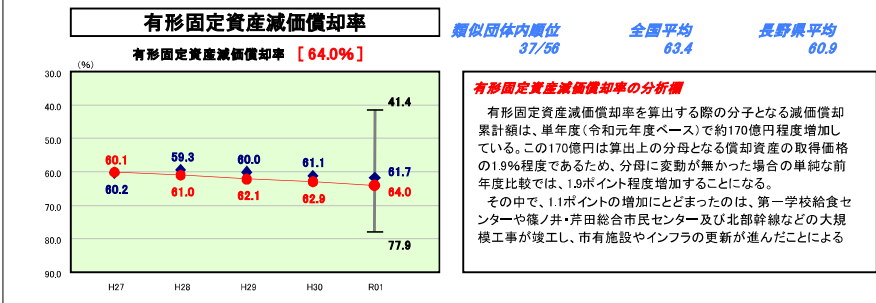
令和元年度

長野県長野市

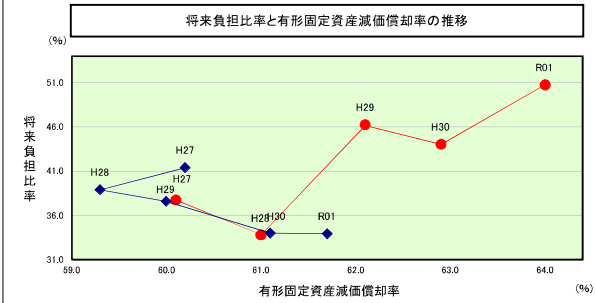
人口	375,884	人(R2.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	371,868	人(R2.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	834.81	km <sup>2</sup>	実質公債費比率	2.8	%
歳入総額	165,740,620	千円	将来負担比率	50.7	%
歳出総額	163,682,918	千円	市町村類型	H27 中核市 H28 中核市 H29 中核市	
実質収支	2,097,703	千円	(年度毎)	H30 中核市 R01 中核市	
標準財政規模	87,609,247	千円			
地方債現在高	153,389,204	千円			



- ※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
- ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
- ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和元年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
- ※ 令和2年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体毎の決算に基づく健全化判断比率等を算出していない団体については、債務償還比率、実質公債費率、将来負担比率のグラフを表記しない。
- ※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。



## 将来負担比率及び有形固定資産減価償却率の組合せによる分析



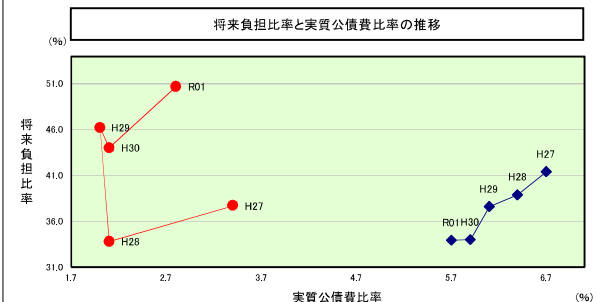
**分析欄**

有形固定資産減価償却率、将来負担比率ともに類似団体平均と比較して、高い状況にあり、有形固定資産減価償却率については、5年連続して増加している。本市は類似団体に比べ有形固定資産の保有量が2割程度(金額換算で1,100億円)多いため、有形固定資産減価償却率への影響が出にくいといった特徴がある。類似団体平均より多くの公共施設等整備費支出を市有施設等の更新を進めているが減価償却がそれを上回っているため、毎年上昇している。

(参考)

		H27	H28	H29	H30	R01
当該団体値	将来負担比率	37.7	33.8	46.2	44.0	50.7
	有形固定資産減価償却率	60.1	61.0	62.1	62.9	64.0
類似団体内平均値	将来負担比率	41.4	38.9	37.6	34.0	33.9
	有形固定資産減価償却率	60.2	59.3	60.0	61.1	61.7

## 将来負担比率及び実質公債費比率の組合せによる分析



**分析欄**

将来負担比率は類似団体と比較して高いものの、実質公債費比率は低くなっている。平成26年度以降、長野スタジアム、第一庁舎・芸術館建設、学校耐震化事業などのプロジェクト事業の市債発行により、将来負担比率が上昇傾向になっている。令和元年度は、令和元年東日本台風災害による災害復旧事業債の発行に伴う市債残高の増加などにより、将来負担額が増加に転じ、将来負担比率が増加した。

実質公債費比率は、長野オリンピック関係の市債償還が終わる平成29年度までは低下傾向だったが、前述のプロジェクト事業に伴う市債の元金償還が本格化したことから、平成30年度、令和元年度ともに比率が上昇した。今後も引き続き上昇が見込まれるため、交付税措置のない市債発行を抑制していくよう努める。

(参考)

		H27	H28	H29	H30	R01
当該団体値	将来負担比率	37.7	33.8	46.2	44.0	50.7
	実質公債費比率	3.4	2.1	2.0	2.1	2.8
類似団体内平均値	将来負担比率	41.4	38.9	37.6	34.0	33.9
	実質公債費比率	6.7	6.4	6.1	5.9	5.7

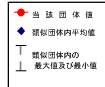


# (13)-1市町村施設類型別ストック情報分析表①

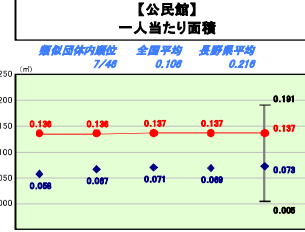
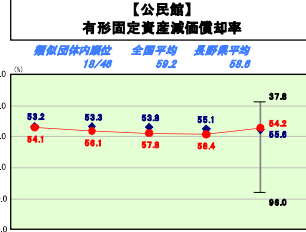
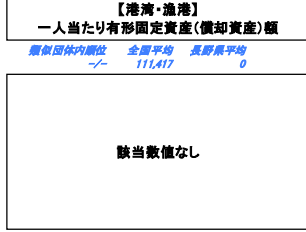
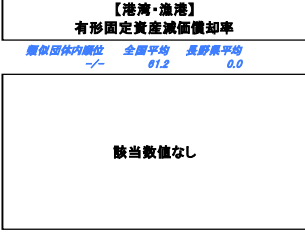
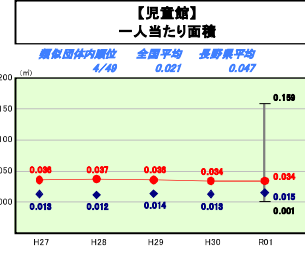
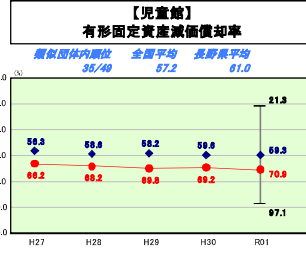
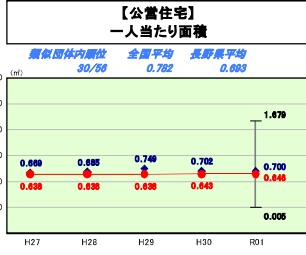
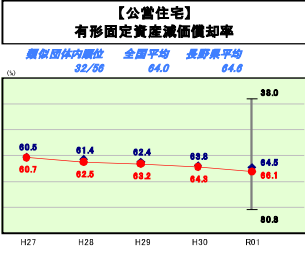
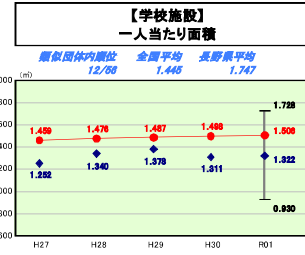
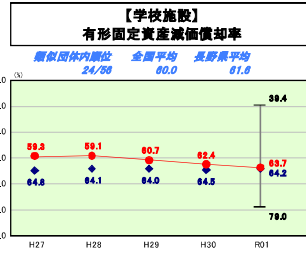
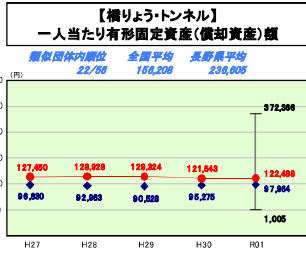
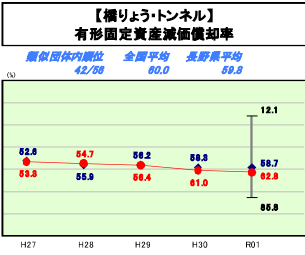
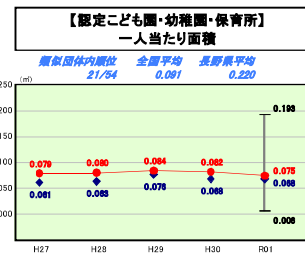
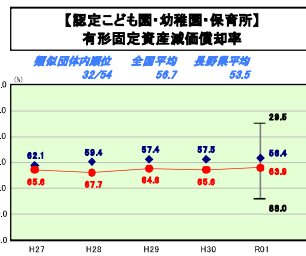
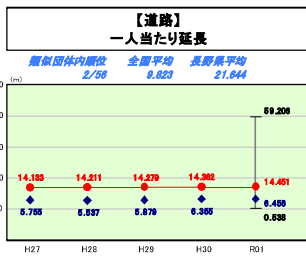
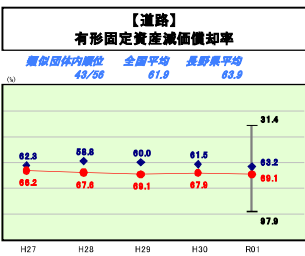
令和元年度

長野県長野市

人口	976,884	人(2.1.1調査)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	371,868	人(2.1.1調査)	運輸実質赤字比率	-	%
面積	834.81	km <sup>2</sup>	実質公債比率	2.8	%
農入総額	185,740,820	千円	将来負担比率	60.7	%
農出総額	183,862,918	千円	市町村類型	H27 中核市 H28 中核市 H29 中核市 H30 中核市	
実収増大	206,753	千円	(年度毎)	H30 中核市 R01 中核市	
標準財政規模	87,605,247	千円			
地方債現在高	153,388,204	千円			



※ 市町村類型とは、人口および産業構造率により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と呼ぶ。  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。  
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和元年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。  
 ※ 類似団体内順位の数値は、各年度の調査で回答があった団体に関するもの。



#### 施設情報の分析

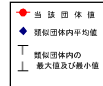
【道路】 道路台帳整備前に築造された路線は、取得日(減価償却開始日)が不明であったため昭和52年を一律設定している。このため、有形固定資産減価償却率の分析(活用)には注意が必要である。市民一人当たり延長は類似団体内3位であるが、道路の性質上乗止や統合は困難であり、今後長寿命化や効率的な維持補修のあり方について検討が必要である。前年度に県施工の道路が市に移管されたため改善したが、令和元年度は更新より償却が進んだため、有形固定資産減価償却率が1.2%上昇した。  
 【認定こども園・幼稚園・保育所】 類似団体平均より高い水準にあるが、築50年近い園舎(中御所保育園、若槻保育園等)の解体工事が完了したため、有形固定資産減価償却率が1.7%改善された。  
 【公民館】 篠ノ井及び芹田総合市民センター建設工事が竣工し、篠ノ井交流センター(公民館)及び芹田公民館も併せて更新されたため、有形固定資産減価償却率が4.2%改善された。

# (13)-2市町村施設類型別ストック情報分析表②

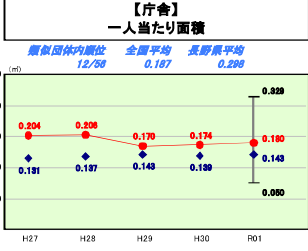
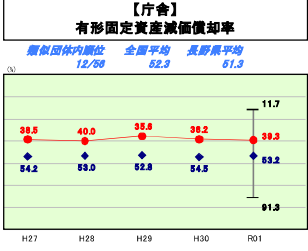
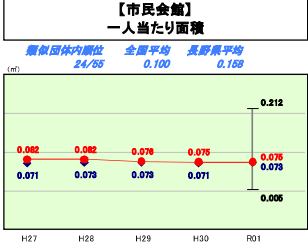
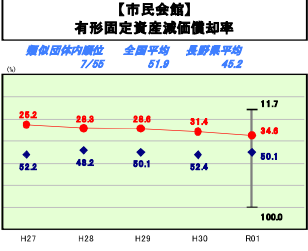
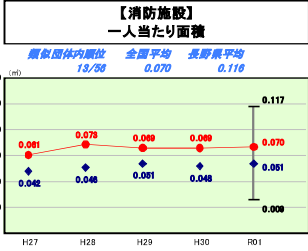
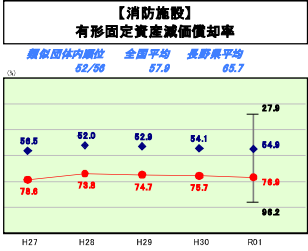
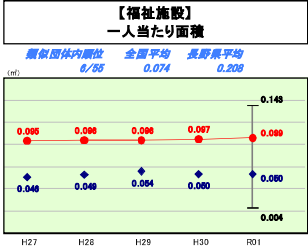
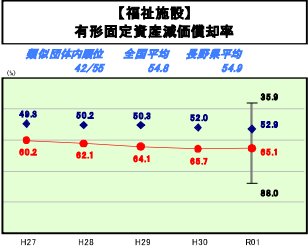
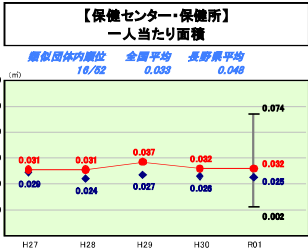
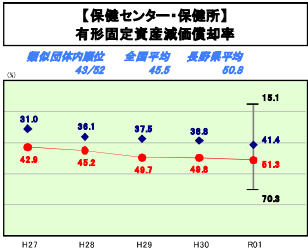
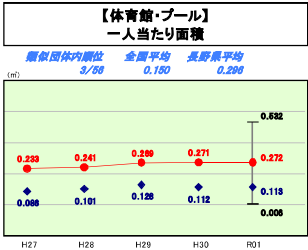
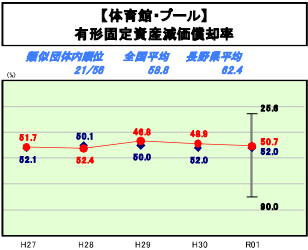
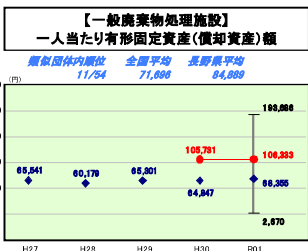
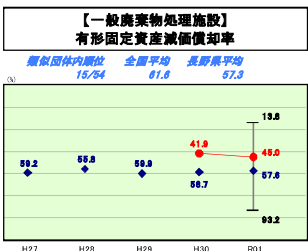
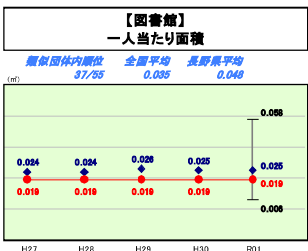
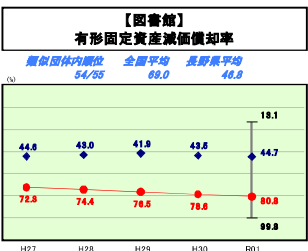
令和元年度

長野県長野市

人口	976,884	人(2.1.1調査)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	371,868	人(2.1.1調査)	運輸実質赤字比率	-	%
面積	834.81	km <sup>2</sup>	実質公債費比率	2.8	%
農入総額	185,740,820	千円	将来負担比率	80.7	%
農出総額	183,862,918	千円	市町村歳入	H27 中核市 H28 中核市 H29 中核市	
実収支	206,753	千円	(年度毎)	H30 中核市 R01 中核市	
標準財政規模	87,605,247	千円			
地方債現在高	183,388,204	千円			



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と呼ぶ。  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。  
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和元年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。  
 ※ 類似団体内順位の数値は、各年度の調査で回答があった団体に関するもの。



**施設情報の分析**

【体育館・プール】 令和元年度は真島総合スポーツアリーナの改修などを実施したが、償却が上回り有形固定資産減価償却率が1.8%上昇した。本市はオリンピック施設の影響等で一人当たり面積が類似団体内で4位と高く、屋外プールについては統廃合を検討してきたが、令和4年度に城山市民プールを解体する方針が決まったため、解体工事が完了すれば有形固定資産減価償却率は、改善される見込みである。

【庁舎】及び【福祉施設】 公共施設マネジメントの取組みにより市有施設の複合化を進めており、令和元年度は、総合市民センター（支所と公民館等の機能を集約した複合施設）が2ヶ所（篠ノ井・芹田）で完成した。このため、【庁舎】は、篠ノ井支所及び芹田支所の更新により、有形固定資産減価償却率の上昇が0.1%に留まり、面積も増加した。また、【福祉施設】では、篠ノ井老人福祉センターの更新により、有形固定資産減価償却率が0.6%改善し、面積もわずかに増加した。

【図書館】及び【消防施設】ともに有形固定資産減価償却率が70%を超えている。【図書館】は、老朽化が進んでいる南町図書館について、今後のあり方の検討を行っている。【消防施設】は、市内に6消防署12分署のほか消防団詰所、器具倉庫、車庫など関係施設の数量が多いため、更新